

## 心理科学研究会設立趣意書

日本における心理学をただし発展させ、その成果を国民の生活と人類の幸福のために役立てることは、心理学にたずさわるわれわれ研究者の心からの願いである。

しかしながら、今日のわが国の心理学界の状況、さらにそれをとりまいてる日本の社会的現実、正しい創造的な研究を進展させる上で、多くの困難な条件をつくっている。

西欧の心理学理論をとり入れることから出発したわが国の心理学は、今日までに多くの研究者を擁するところまで発展しているにもかかわらず、いまだに外国の研究の追隨に急であって、真の国民的課題と結びついた創造的研究へと発展していない。

しかも、この外国心理学への追隨は、戦後、プラグマティズム・行動主義・実存主義・実証主義等に関する心理学の諸潮流の無批判な撰取としてあらわれ、それは、日本における心理学の発展を著しくさまたげてきた。

あたかも科学の装いをもって導き出された人間の認識活動、能力、発達、人格等についての誤った理論や解釈は、さまざまな反動的政策（例えば、教育政策）と結びつき利用されてきた。さらに、主観的には善意で行われた研究の成果さえも、今日悪用されていく危険性が、特に大きくなっている。

また、学界の非民主的運営や大学等の研究機関におけるセクショナリズム、反動的研究体制は、研究者に劣悪な条件を強いているだけでなく、このような状況の中で生じている研究活動の荒廃、研究の極端な個人主義、業績主義的傾向は、日本の心理学の正しい発展のために、きわめて危機的状況をつくり出している。

こういう状況の中でも、これまで、このような条件を克服し、正しい心理学を進展させるための努力が、一部の良心的な研究者によって払われてきた。しかし、その運動は、心理学界の中で、啓発的な機能を果たすにとどまり、十分組織的な活動を展開するに至らなかった。

われわれは、先人のこのような努力をひきつぎ、今日のこの困難な条件を克服し、民主的に正しい創造的な心理学を進展させるためには、新たな研究集団を形成しようと考えた。われわれが、研究会を結成するのは、以上の理由にもとづくものである。

1969年4月